



Title	太宰治スタディーズ 別冊第1号 著者紹介
Author(s)	
Citation	太宰治スタディーズ 別冊. 2013, 1, p. 77
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/97722
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

著者紹介（五十音順）

井原あや（いはら・あや）

大妻女子大学大学院文学研究科国文学専攻博士課程単位取得退学。博士（文学）。現在、大妻女子大学文学部、同短期大学部、相模女子大学、実践女子大学非常勤講師。編著『コレクション都市モダニズム詩誌第23巻 名古屋のモダニズム』（和田博文監修、2012.10、ゆまに書房）、論文「女性週刊誌で「ヒロイン」を語るということ——石垣綾子「近代史の名ヒロイン」を考える」（『大妻国文』2013.3）など。

大國眞希（おおくに・まき）

東京学芸大学連合大学院修了。博士（教育学）。現在、福岡女学院大学教授。人間によって象徴化されたとの観点から文学作品を、絵画や音楽との比較を通じて研究している。近年は特に〈音〉に注目した環境教育と文学教育との横断的研究を推進中。主な論文「水中のミュートとブレス」（『iichiko』2011.10）、「小説に倍音は響くのか、言葉はいかに生成するのか」（『太宰治スタディーズ』2012.6）など。

小澤純（おざわ・じゅん）

1976年生まれ。早稲田大学大学院文学研究科日本文学専攻博士後期課程修了。博士（文学）。現在、慶應義塾志木高等学校教諭、早稲田大学・恵泉女学園大学非常勤講師。論文「『田舎者』が〈故郷〉を書き散らすまで——初期太宰文学における〈葛西善蔵〉表象の考察——」（『昭和文学研究』2012.3）、「『『馬来の日記』序』——太宰治と櫻岡孝治を再び繋ぐ「戦地」」（『太宰治研究』2013.6）など。

野口尚志（のぐち・なおし）

1976年生まれ。筑波大学大学院博士課程人文社会科学研究科文芸・言語専攻日本文学領域修了。博士（文学）。論文「太宰治「ロマネスク」論——「嘘」による〈芸術〉の夢想——」（『稿本近代文学』2007.12）、「太宰治「葉」論——〈不安〉にたどり着くまで——」（『日本語と日本文学』2012.8）、「太宰治「めくら草紙」論——〈空虚〉な〈私〉とボードレール、象徴主義——」（『稿本近代文学』2012.12）など。

松本和也（まつもと・かつや）

1974年生まれ。立教大学大学院文学研究科博士課程後期課程修了、博士（文学）。現在、信州大学准教授。著書『川上弘美を読む』（2013.3、水声社）、論文「昭和十年前後の“リアルズム”をめぐる——饒舌体・行動主義・報告文学」（『昭和文学研究』2007.3）ほか。

若松伸哉（わかまつ・しんや）

1976年生まれ。青山学院大学大学院文学研究科日本文学専攻博士後期課程修了。博士（文学）。現在、愛知県立大学准教授。論文「再生の季節——太宰治「富嶽百景」と表現主体の再生」（『日本近代文学』2011.5）、「焼跡で虚構を立ち上げる——敗戦直後から見る石川淳「焼跡のイエス」」（『昭和文学研究』2012.9）ほか。